

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300727		
法人名	社会福祉法人仁和会		
事業所名	グループホーム 聖心園		
所在地	熊本県人吉市南町8-1		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの暮らしを大切にしてお互い助け合いながら生活をされていること。</li> <li>・一日一日を大切にしながら、四季を肌で感じていただけるようにしていること。</li> <li>・散歩や外出、面会の機会を多く持ち、地域の方々との交流や家族との絆を大切にしていること。</li> <li>・母体施設と協働しながら、安全安心の暮らしを提供できること。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>歴史ある法人の精神を受け継ぎ、地域密着型事業所として独自の介護理念を確立して、入居者主体の運営を展開している。「スープの冷めない距離」にある母体施設との揺るぎない連携は運営推進会議への毎回の参加や、合同研修会、食事の提供、外出時の大型車両の貸与等支援のすべてに渡り、母体関係者は推進会議に関わらず頻回にホームを訪れ、入居者の心に触れながら距離を縮めている。入居者も又、職員と共に母体施設への散歩を日課とし、お茶を楽しむ関係にある。入居者に「今出来る事」を本年度の支援の主軸とし、天気の良い日は庭に出て外気を浴びる事や、入居者の思いや提案を受けて外出の機会をより多く取り入れ、体調不良等により外出が叶わなかった入居者へはその日を、1対1でゆっくり関わるケアに徹し平等を重じる精神が確立している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈愛に満ちた法人の精神を受け継ぎホーム独自の理念を話し合いのもと作成した。実践に向けてグループホーム援助目標を掲げ取り組んでいる。地域密着型としてのサービスの意義を研修や会議で学び日常生活の中に取り入れながら実践している	本年度より法人の基本方針、運営方針、ホーム独自の援助目標の3綱領を事務所内にわかり易く掲示し、職員は日々、目にし各自に書きとめながら支援に当たっている。援助目標は毎年見直し、必要によって文言の変更を行っている。管理者は職員の入職時に3綱領を元に心得を説き、縁あって来られた入居者に対し一日一日を大切にすることを伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会役員の方や地域の方々との交流を図ったり清掃活動に参加している。また老人会より施設見学があり顔見知りになり挨拶や交流がある。地域の幼稚園や小学校の運動会にも招待され出席している。	自治会へは加入していないが、代表者からの情報により地域の清掃活動に職員が参加している。入居者は散歩中に近隣の人々と挨拶を交わしたり、小学生や職員の子供の訪問時は会話やお茶を楽しんでいる。本年度は多くの外出の機会を支援し、地域へ出向き人々との交流を拡充している。定期的な法人シスターによる講話も入居者に心待ちな時間となっている。	法人で実施されている学生への介護実習の受け入れをホームでも是非検討したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員ボランティア老人会の方々の研修の場として提供している。施設見学や入所希望者の方々に相談しやすいように場を作り認知症の理解や支援方法など提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的に会議を開催し活動状況暮らしぶりなどを報告しておる。また会議の中で委員の方より質問や意見などに対して詳しく説明を行ったり日常生活の中でのサービスに生かしている。	定例化した会議には行政や地域代表者、家族、入居者、法人関係者等が参加している。参加者にはホールで過ごす入居者の普段の様子をみてもらいながら、活動報告や入居者の現状を伝えている。議題は設定していないが、地域の情報を得たり在宅介護や身体拘束等についても意見交換が行われている。正確な議事録とする為に参加者の理解を得て進行内容を録音し、詳細に記録している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会議のメンバーに市の担当者の参加があり実情を伝えており意見やお互いに情報交換を行っている	推進会議への行政担当者の参加により情報交換を行ない、質問や相談事に応じてもらっている。認定調査時は管理者や家族が立ち合い、入居者の状況を伝えながら友好的な関係を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束をしないケアの実践に向けての全体研修に参加している。また部署研修でも取り上げ各スタッフ研修報告書を他のスタッフの報告書も読み拘束をしないケアの理解と実践を行っている。またスタッフが身体拘束委員として法人の委員とともに情報を共有している	法人の全体研修での内容をホームに持ち帰り、資料等から個々に感想をつづり、毎月の会議の中に織り込んでいる。共通認識を持って拘束のないケアを実践しながら、スピーチロックによる弊害についても正しく理解している。車道に面している事から安全上門扉は施錠しているが、玄関やホーム内は常にオープンであり、入居者は職員と自由に庭に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連について事務所に掲示している。法人の全体研修や部署研修に積極的に参加し知識を深めている。また利用者やご家族には認知症の機会を始め無理の無い関係が築けるように情報提供を行ったり談話の機会をもっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署研修において日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学んでいる。また必要性を関係者と話し合い活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に施設見学をしていただいている。ホーム内を見ていただき管理者は契約に関して不安や疑問点などを尋ね十分説明して理解して頂くようにしている。改定時は変更のお知らせの文章と口頭で説明し理解納得して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に運営推進委員会のメンバーとして参加して頂いている。ご家族が意見や要望を言えるように管理者や職員は日頃より何でも言える関係づくりを心がけている。また苦情受付先の紹介を園内に掲示し紹介している。	職員は入居者の一言一言を聞き洩らさず日々接する事を心がけ、家族からは、面会時等に入居者の状況を小まめに報告しながら要望を引き出している。その際、良い事ばかりではなく、気になる点も正直に伝える事で信頼に繋げている。入居者の「バスは乗らんよね～、人吉の市はわからん！」の一言から、市内廻り“じゅぐりとバス”乗車の機会に繋げたり、「顔にクリームをつけたい」の要望に、家族に連絡をとり持参してもらう等、早急な対応が取られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常生活の中で職員が意見や提案を言うことができるようにしている。また月1回の運営委員会で職員の意見などをまとめて報告や提案を行っている。	代表者は機会あるごとにホームを訪れ、入居者と会話を行ったり、職員にも声をかけ状況を確認している。又、管路者は代表者と連携しながら職員の健康状態や働きやすい環境整備に努め、日常の中で意見や要望を確認している。職員のアイデアで、川で収集した石を使った石籬作製は好評であったようだ。現在、入居者が日光浴やおやつ・ランチタイムを楽しむ為に玄関先に設置するベンチ購入の要望が出されている。	提案されているベンチ購入の実現により、入居者が人の往来や季節の樹木を眺めながら、お茶の時間を楽しむ等活動の範囲が広がっていくと思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は個々の勤務時間を把握しており勤務場所や労働時間を配慮している。また個々の職員が自分の特技を発揮できる担当にしている。資格取得後は正規雇用としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として職員を育てる為の取組をしており園内研修外部からの講師を依頼しての研修をはじめ外部研修の紹介や個人の実力に合った研修を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年6回の人吉球磨グループホーム連絡会の勉強会や交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に施設を見学していただき生活の様子を見て頂いている。ご本人の気持ちを受け止めながらご本人にとって安心できる暮らしの支援に向けての関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に施設を見学していただき生活の様子を見て頂いている。家族の気持ち不安要望が言える関係作りを行い思いをしっかりと受け止め柔軟な対応を心がけている。具体的に不安解消にむけて出来るとことから一緒に考えていくことで信頼関係を気付いていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込時の面談により今必要な支援を見極め他の事業所の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの出来る力を見極めながらともに支えあいながら過ごしている。それぞれ利用者は自分でできることを本人が役割とされ毎日の生活の中で継続されておられ共に支えあいながら生活を送られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にきていただくことが多くその際情報提供を行っている。家族との時間を大切にさせていただき環境設定を行っている。また外出時など家族も参加視して頂いたり常時のときにも呼びかけ家族と共に。過ごされている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容店の方が来園され本人の希望を聞きながら髪を切ってくださっている。ふるさとめぐりや外出の機会を多くし関係継続の支援をおこなって居る。またホームに来られた際も再度面会に来ていただきやすいように声かけや場の設定を行っている	馴染みの地を訪れる「ふる里訪問」には、法人の大型車を借りて出かけたり、周遊バスを利用して市内の主要スポットを周っている。ホーム内では入居者同志も馴染みの関係であり、食事の進み具合を心配したり、暗黙の了解で食事前後のテーブル拭きを二人の入居者が交互に行っている。職員は入居者の得意とされるエレクトーン演奏や、本や新聞の読み聞かせを支援し、エプロン姿が似合うその人の生活スタイルを継続してもらう事で張りのある日々を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の日々の身体状態や心理状態の把握に努め利用者同士が係わり合いをもてるように支援を行っている。また言葉での意思表示が出来ない方は行こうをくみとり代弁し利用者同士の関わりが温かいものになるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者、家族の意向により契約を終了したケースについては今後の継続的相談窓口になることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前より本人の希望意向を確認している また日々の生活の中で本人の希望や意向などを会話の中からみだし実現できそうなことは検討し実施している	入居前にホームをみてもらう事で安心して利用してもらうよう心がけ、本人や家族の思いを引き出しプランに反映している。入居者と職員は普段から何でも言える関係であり、外出支援も入居者の思いから実現する事も多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時御家族や事業所より情報提供をはじめとして面会者との談話や生活の中から話しを聞いたり記録したりと情報を共有している・また入所後も面会の際も関わりを持ちこれまでの暮らし方などの把握につとめ情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることわかることのアセスメントや毎日の健康チェック表や支援で本人の望む暮らし方が出来ているかスタッフは日々の係りの中で把握しスタッフと情報提供しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い家族の意見希望を聞きスタッフ全員参加のケア会議で意見やアイデアを出し合い介護計画書を作成している	入居者を職員の担当制としているが、個々の現状を全職員が「気づきノート」に記入し共有しながらケア会議にも全員が関わっている。入居者の出来る事、得意とする事を見守り、外出時の転倒等には手を繋ぐ、腕を組むといった支援を盛り込んでいる。初回プランを三カ月で評価し、その後は半年ごとに見直し家族への説明時はわかり易い言葉で表現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日中夜間での様子やケアの実践気づきを記入している。毎月のケア会議の資料として担当者が気づきシートの記入をしスタッフが各利用者の状態をみながらケア会議を行っている。記録によるケアが共有されケアが統一実践に活かされている		
28		○1人ひとりを支える為の事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活での利用者の思いやことばを受け止め家族との情報交換を行いながら計画を立て実現できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の周遊バス乗車やプラネタリウム、四季それぞれの祭りや行事など家族の協力を得ながら豊かな生活が楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族の希望を大切にしながらかかりつけ医師と連携をとっている。医師の病状説明は、家族とともに聞くようにしている。遠方におられる家族へは、その都度電話にて状態報告を行い記録している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援する事を伝え、現在は全員協力医の定期受診をホームで対応し、電話や訪問時等状況に応じ家族へ報告を行っている。専門科(眼科等)の受診は家族で行われ、結果がホームに伝えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の准看護師と本体の看護師が情報交換を行い看護を行っている。日常生活でのバイタル測定や状態の変化に気を配り看護師と連携をとっている。また、医療機関の看護師とも連携を取り、相談や便宜を図ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連携をとりながら受診時より付き添い、入院時は情報提供をしている。入院中も面会や電話で病院関係者と情報を交換し早期退院に向けて協働している。家族の意向や相談を含め連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合や終末期のあり方を説明して同意を得ている。重度化の方については、医師・家族・事業所で話し合いの場をもち方針を共有している。	「重度化した場合の対応による指針」を作成し、入所時に、重度化や終末期のあり方について説明を行い同意を得ている。重度化した時点で医師を含め関係者で話し合いの機会を持ち、方針を共有しながら方向性を決定している。管理者は家族の思いは状況により変化するものであり、必要に応じ家族の意向を確認する機会を大切にしていきたいと語っている。	今後は家族の意思を確認する機会や、重度化・終末期支援を含め、メンタル面にも配慮し、看取りについて職員の研修会を開催する事も必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部講習で消防署より蘇生法の実技講習を受けた。また部署研修でも取り上げた。緊急マニュアルを目の留まるところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に月1回避難訓練をしている。災害時マップマニュアルは目に留まるところに掲示している。消防署との自動通報装置も設置している。年1回、消防署立会いの避難訓練も実施している。	夜間想定を主にベルを鳴らした自主避難訓練を毎月行っている。年度末には消防署立会いの総合訓練が計画されている。昨年の訓練ではベルの音で、職員の誘導の音が聞き消され、大きな声を出す必要があるとの指導を受け、職員間で次回に活かし行くことを確認している。又、環境委員によるコンセント確認や、居室内は職員によって安全チェックが行われている。	避難訓練を実施するにあたり、近隣に訓練日と併せ、ベルを鳴らすことを伝えておくことや、今後は地震などの自然災害についての対策や、本体に準備されている備蓄についての確認も必要と思われる。又、実施されているコンセントや居室内の安全チェックを記録に残すことで、より確実性や意識付けに繋がるとと思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護、プライバシーの保護について見えるところに掲示している。また園内研修、部署研修において学んでいる。日常生活において、言葉かけやプライバシーに気を配り支援を行っている。	排泄や入浴支援などプライバシーに配慮した対応に努め、居室へ入る時も在・不在に関わらずノックや了解を得て行っている。又、病状や体調などについて職員間で確認し合う時も、場所や声などに十分配慮している。新人研修の中でも、守秘義務やプライバシーについて話が行なわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話の中から1人1人の思いや希望を聞き取っている。また思いを伝えやすいように信頼関係を築いている。自己表現できない方も代弁することで笑顔で談話に参加されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフはひとりひとりのペースがあることを知っており大切にしている。天気がよい時は散歩の希望があれば付き添ったりひとりひとり好まれる事を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台にブラシを置きいつでも鏡をみながら髪をといて頂けるように配慮している。また髪にムースをつけて髪をいたり鏡をテーブルの上におき口紅を渡すと嬉しそうに口紅をつけられおしゃれをたのしんでおられる。また利用者それぞれこのみの服を着てすごされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前のテーブル拭き食事の盛り付け配膳下膳茶碗洗いテーブル拭きなど利用者ひとりひとりが自分の役割とされ職員と協力しながら力を発揮されている。	母体で調理された副食を利用し、主食のご飯をホーム内で炊いている。その為入居者の希望を取り入れた献立作成は困難であるが、午後は毎回、季節や希望を取り入れ手作りおやつが提供されている。日々の調理に関われる方は少なくなっているが、野菜の下準備や台拭き、下膳など出来る事を一緒に行っている。リビング食堂入り口には、献立がスタンドボードに記入され、入居者の楽しみに繋がっている。	現在職員は持参した弁当と一緒に撰んでいるが、入居者と思いを共有する為にも、味や量の確認を兼ね一名でも同じ食事を摂る事が必要と思われる。又、昼食に汁物が添えられる事で、喉越しも良くなると思われる。検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事1人ひとりの食事量に気を配り状態を把握し情報を共有している。10時には牛乳+ココア牛乳+きな粉などのみやすいように工夫している。またテーブルの上に急須を置き食前食後も飲みやすいように設置し水分を摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性をスタッフは学んでおり朝の洗顔時、毎食後、歯磨きや義歯の手入れを支援している。歯磨き後の水を吐き出しにくい方にも歯磨きを歯科より購入され口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりのそぶりを感じ取ったり、排泄の訴えなどプライバシーを保ちながら支援している。紙パンツを使用しておられた方2名が布パンツを使用され排泄の失敗も少なくなられた。	職員は表情や仕草から察知し、さりげない声かけや誘導により、日中はトイレでの排泄を支援している。ケース検討会で排泄用品について話し合い、家族とも相談しながら紙から布下着に変更になった方もおられる。夜間のみ使用される方のポータブルは早朝に洗浄し、天気の良い日は日光干しにより気持ち良く使用できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スタッフが本体の排泄委員会の一人として活動し情報提供などを活かし便秘の及ぼす影響を伝えられている。各スタッフが、水分量を把握し利用者が自由に飲まれるようにテーブルにセッティングを行っている。また牛乳にきなこを混ぜたりと工夫している。体操や散歩など身体を動かしていただき便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースにあわせて入浴を楽しまれるようにしている。ご自分で手が届くところは洗っていただき、手の届かない部分を洗っている。立位が困難な方は二人で支援し安全にゆっくりと入浴を楽しまれている。	毎日準備を行い、基本的に週二回の入浴を午後から対応しているが、それ以外でも希望に応じ支援している。会話を楽しみながら、状況に応じては二人対応でゆっくりとした入浴支援を行っている。又、季節に応じ浴室や脱衣所の温度管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	20時頃までホールでテレビを見たりお茶を飲まれたりとゆっくりとスタッフと過ごされその後、居室へ戻られ休まれる。居室の温度調節や加湿への配慮、寝具の調整などに配慮している。また、利用者の排泄タイミングにも気をつけ安全に安心して休まれるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書をいつも見れるように個人ケース記録にとじている。薬の変更時は連絡ノートや各個人の記録で伝達している。服薬については、各利用者の薬を朝、昼、夕のビニール袋に分けて入れ服薬前、スタッフ2名で確認を行い服用支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体を動かす事が好きな方は、スタッフと共に掃除をされたり、茶わん洗いなどを積極的にされている。また、エレクトーンを弾かれたり、洗濯物干し、たたみ、テーブル拭きなどそれぞれの利用者の方々がご自分が進んで役割を持たれ継続的にされておられる。天気のよい時は、外に出て近所を散歩されたりと、気分転換をはかられている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出て散歩されたりと地域の方々との交流を楽しみにされている。また、日常会話の中で、楽しみなことや希望などを把握し、計画をたてて実施している。また、家族や地域の協力を得ながら一緒に過ごされ家族との絆も大切にして支援を行っている。	今年度、入居者が家族・地域と関わり思い出となる外出支援に職員が思いを一つにして取り組んだ事が、聞き取りや記録からも確認された。天気のよい日はわずかな時間でも手をつないだり、車イスを押し近隣を散歩し花を摘んだり、本体でお茶を頂き帰園するなど日常的に行われている。又、家族も参加しての祭り見学や地元めぐりバス乗車(人吉じゅぐりっど)は好評であったようだ。家族の協力により盆・正月の帰省や外泊、飛行機旅行を楽しまれた方もおられる。入居者のADLの低下により全員が揃ってのバスハイクなど困難になっているが、個別支援を充実させ、公平な外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持しておられる方が1名おられる。施設預かりの方も外出時やお買物、お祭りの時など手渡し使うことの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話をかけたいと希望があれば、スタッフが電話をかけ家族と話をされている。また、遠方におられる家族へ近況報告時に電話にでもらい話をされている。また、一家族の方は日曜日に定期的に電話をかけて下さりお話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や洗面台食堂など四季折々の花をかざっている。また庭にも花を利用者の方々と一緒に植えたりしてたのしんでいた。またホールからも木々の紅葉も楽しめたり児童の様子やバス自動車など日常生活の様子が見えたりと心地よく過ごしていただけるように工夫している	ホーム敷地に入ると手入れされた花のプランターや、玄関・洗面所には家族や職員が持ち寄った季節の花々、手作りの飾物(石籬など)が飾られ和やかな空間である。吹き抜けのリビングに置かれたエレクトーンは入居者によって奏でられ、合わせて歌う入居者の声ホーム内に響きわたっている。廊下・浴室・トイレなどの共用空間は掃除が行き届き、入居者に居心地の良い環境を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は利用者同士の関係性を考えながら設定している。ホール3カ所にソファを置いたりコタツを置いたり、また居室前にもソファを置いたり好きな場所で好きな時間を過ごされる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より家族・本人と相談しながら馴染みのダンスや椅子などを持ち込んでいただいている。また、家族の写真を飾られたり仏様をお参りされたりと利用者一人一人の生活空間を工夫している。	それぞれの居室は使いやすい間取りと広さが設けられ、家族の協力によって、鏡台やダンス・ラジオ・テーブル・仏様など馴染みの品々が持ち込まれ、落ち着ける空間である。又、居室の窓から隣家の畑や庭を間近に眺め、居ながらにして季節感を味わっている。衣服の管理をはじめ、個々の状況に応じた物品の配置など、家族と連携しながら居心地の良い部屋作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、廊下、トイレなどには手摺があり床はバリアフリーとなっている。トイレ入り口のドアの取っ手は色を赤に統一し居室入り口と区別している。各利用者の居室は花の名前と利用者名を明記している。トイレも居室近くにあり使いやすいものとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容